

令和2年2月3日

松阪市議会議長
大平 勇 様

研修報告

日時 平成2年 1月21日（火）
場所 京都テルサ東館2階「視聴覚研修室」
講師 大阪府子ども家庭サポーター 辻由紀子氏

地方自治体は子どもの問題に何ができるか？

研修報告者 中村良子

子ども・家庭を取り巻く現代的な課題について

事前対策から根本解決へ

イマドキ子育てについて

本能まかせではうまく子育てできない

知識や経験のないまま親になる

出産後の孤立

育児をだれからも学べない

便利な世の中になったけれど人間関係が希薄になった

命の授業・・・乳幼児ふれあい体験授業

地域リビングスペース・・・子ども食堂、宿題カフェ

家庭・学校・地域が・・・エプロン先生

中学生～若者の居場所・・・ユースプラザ（茨木市）

高校における居場所・・・生徒フォローアップ事業（大阪府）

虐待する親の傾向

体罰肯定感

自己の欲求の優先傾向

子育てに対する自信喪失

子どもからの被害の認知

子育てに対する疲労・疲弊感

子育てへの完璧志向性

子どもに対する嫌悪感・拒否感

中間支援で必要なこと

仲間と出会える場所

気軽に借りられる公共施設

託児ありの場所

自由に過ごせる場所（飲食可）

居場所と出番（互助を増やす）

世代間ギャップを埋めるための翻訳者（価値観違い）

児童虐待・子どもの貧困

児童虐待が増加する理由

- ・ 面前DV・パートナーチェンジと新たなDV
- ・ 男女間の争いをおさめることができる相談員を養成&増員してこなかった
- ・ 配偶者暴力相談支援センターや自治体職員だけでは現場に対応できない
- ・ 保護者が変わらないと児童虐待はなくなる。保護者へのカウンセリングプログラ

ラムがほとんどない

- ・プログラムは平日開催が多く、連続参加が原則なので働いている保護者は参加できない
- ・保護者支援ができる専門家がない
- ・一方だけの親がプログラムを受けても、パートナーがいっしょに変わらないと新たなDV、虐待につながる
- ・数年後、親になる世代に恋愛や子育てについて教えていないのに、未来のDV、児童虐待はなくなるわけがない
- ・「性教育バッシング」があったため、教育現場が萎縮して伝えることをしなくなった

児童虐待・貧困の連鎖を断ち切る！

大阪で始まった「性・生教育」

- ・数年後、親になる世代に教育現場でデート、DV、アンガーマネージメント、ライフスキル、子育てなどのやり方などを伝える

「暴力」を「言葉」に変えた大阪市生野南小学校

1年生：「たいせつなところと体 ～プライベートゾーン～」

2年生：「みんなむかしは 赤ちゃんだった」

3年生：「子どもの権利条約って知ってる？」

4年生：「10歳のハローワーク ～LSWの視点から～」

5年生：「愛？それとも支配？ ～パートナーシップの視点から～」

6年生：「家庭について考えよう ～結婚・子育て・親子関係～」

【ポイント】

保護者を追い詰める発信にしない

・全国民が「体罰禁止」を当たり前の感覚にしていくことは大切だが、適切な養育のやり方がわからずに苦しい思いを抱えている保護者に対しては、「体罰禁止」ではなく「子育てをサポートします」というメッセージを発信する

当事者にとって「禁止」は重たく、追い詰められるメッセージ

・核家族が増えて「わが子が初めて抱く赤ちゃん」という家庭が多く、適切に子育てが出来るほうが奇跡！ うまく出来なくて当たり前

・保護者には「禁止」ではなく、実践を通して先輩や専門家から子育てを学べる機会の確保や、子育てをサポートし合える環境を構築していく

所感

非正規雇用など経済的不安定、保証制度のない生活者が多くなっている社会状況にあり、核家族で育つ子どもは体罰をうけても、頼るものは親しかない現状のビデオを見せて頂いた研修であった。

子育てを行う人を社会や個人が関わり支援しなければならないことはこれまでも認識はしていたが、松阪市における心、経済、知識などの貧困の現状調査、把握、根本的対策、支援の必要性を再認識した。

松阪市政における教育と福祉のさらなる連携と充実をもとめていく。